

実態調査報告書からわかることは、排出量が平均よりも少ない世帯と多い世帯が同じように分布していないということです。付図 1 からわかるように、1 人 1 日あたり排出量が 250g から 300g の世帯がもっとも多く、そこから右側に、左側よりもはるかに多数の世帯が分布しています。1000g を超える量を排出している世帯ですら、必ずしも例外とはいえないのです。

調査対象を 3 つの世帯グループに分類すると、平均値は次のように変わります。

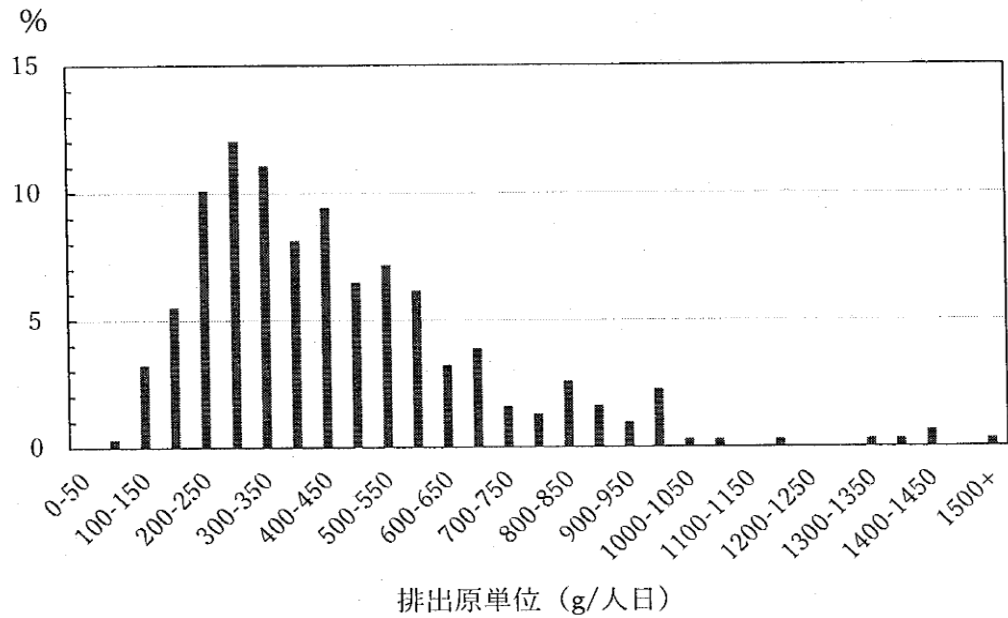
勤労世帯	383g
自営業世帯	508g
年金等世帯	508g

別な区分によれば

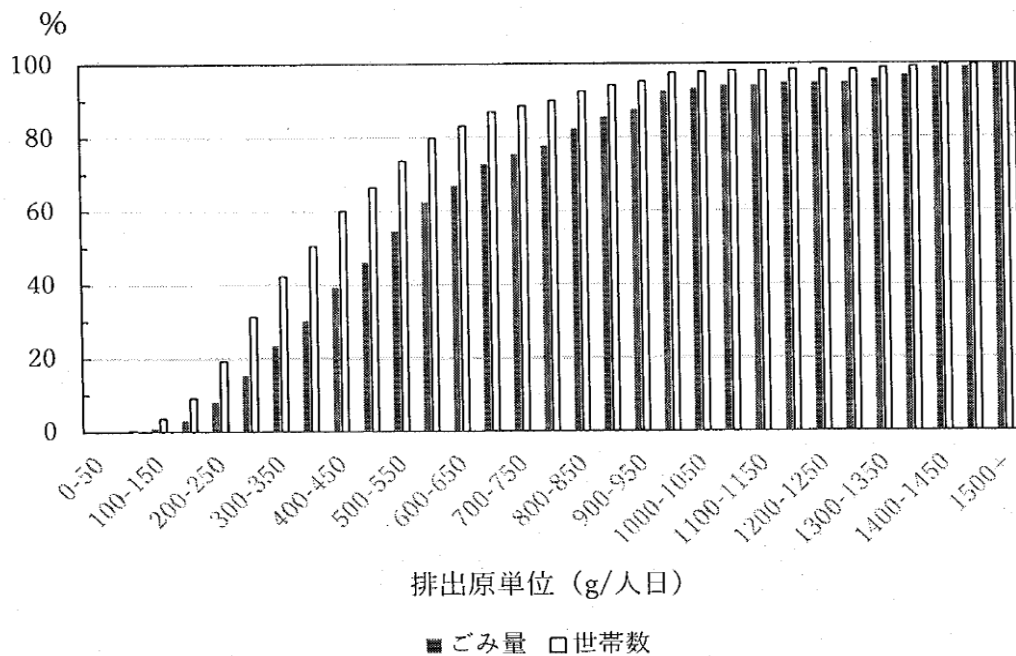
高齢者でない一人世帯	583g
高齢者の一人世帯	567g
高齢者でない二人以上世帯	340g
高齢者の二人以上世帯	420g

ということもわかります。自営業では多く、また高齢化が一つの要因だということは明らかですが、同時に「高齢者でない一人世帯」という、実態がはっきりしない世帯の存在も大きそうです。排出原単位が非常に多い世帯は数%存在するのですが、付図 2 の累積分布から読みとれるように、彼らが排出するごみはごみ総量のなかでもっと高い割合をしめています。900g 以上排出している世帯は世帯数の 6%ですが、彼らはごみ総量の 12%を排出しているのです。

付図 1 排出原単位階級別の世帯分布：



付図 2 ごみ量と世帯数の累積分布



資料： 2019(令和元)年度清掃一組『ごみ排出原単位等実態調査』.

註： ごみ排出量は可燃・不燃ごみ計で，原単位は1人1日あたりg. 調査世帯数は307.